

令和8年 もち加工用米「ゆきみらい」栽培暦

【品種の特徴】

- 出穂期は7月20日頃、成熟期は8月26日頃の早生もち。千粒重が大きい。
- 耐倒伏性はやや強で、穂発芽性はやや易、耐冷性は中。
- いもち病ほ場抵抗性は葉いもちがやや強で、穂いちは弱。
- 墨黒穂病の発生は、「わたぼうし」より少なく、「ゆきみのり」並。
紋枯病にはやや弱い。

【生育のめやす】(5月5日頃移植)

生育ステージ	葉数(葉)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(SPAD)
有効分げつ終止期(6月15日頃)	8.1	40	330	42
1回目穂肥時期(6月27日頃) (最高分げつ期、幼穂形成期)	9.7	55	450	41
2回目穂肥時期(7月7日頃)	11.0	65	430	43
出穂期(7月20日頃)	11.6	稈長75	穂数380	44

注) 成熟期は8月26日頃

【収量構成要素及び品質のめやす】

目標収量	660kg/10a
穂数	380本/m ²
一穂粒数	80粒
m ² 当たり粒数	30,400粒
登熟歩合	88%
千粒重	24.5g
整粒歩合	70%以上

【生育ステージと管理のポイント】

月 半旬	4月				5月						6月						7月						8月						9月													
	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2												
注意を要する 気象の特徴	← 気象変動大きい →						← 気温は上昇 →						← 一時低温 →						← 過高温(フェーン)・少雨 →																							
生育ステージ	播種				移植						分げつ前期						中干し 溝切り						穂肥1回目 6/27頃						穂肥2回目 7/7頃						出穂期7/20頃						成熟期8/26頃	

栽培法・適量基肥
<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト栽培を前提 ・もち品種は連作 ・極早生で雀害を受け易いので団地化 ・うるち品種後作付ほ場では初期除草剤で前年落下粒の生育を阻止 ・一般ほ場の基肥窒素量は5kg/10a(高度化成オール14を35~40kg/10a)をめやす ・大豆後ほ場の基肥は無肥料又は極少量でスタート

健苗育成
<ul style="list-style-type: none"> ・播種期は4月10日頃 ・育苗期間20日程度で2.0葉苗 ・こまめな温度管理で徒長防止 ・硬化を十分に行い移植4~5日前に移植前追肥

適期移植
<ul style="list-style-type: none"> ・移植期は5月初め頃、好天日に移植 ・1株苗数3~4本 ・植付深は2~3cm ・栽植密度は平坦地で60株/坪セット、山間地で60~70株/坪セットがめやす ・栽植密度が少ないと茎数確保できず穂数不足と収量低下を招きやすいので注意

水管理と中干し
<ul style="list-style-type: none"> ・田植後は深水で苗を保温、活着後は浅水管理で分げつ発生を促す ・中干しは6月10日頃をめやすに開始する。 ・出穂期1か月前までに終了する。 ・中干効果を高めるため、溝切りを実施する。

病虫害防除
<ul style="list-style-type: none"> ・穂いもちには弱いので、葉いもち及び穂いもち防除を必ず実施する。 ・墨黒穂病、紋枯病は発生しやすいほ場では防除を実施する。 ・カメムシ類の防除は必ず実施する。 ・極端な多肥栽培は病虫害の発生を助長するため、適正な肥培管理を行う。

穂肥施用・水管理
<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期が早いので幼穂を確認し、穂肥が遅れないように注意する。 ・穂肥は出穂期23日前に窒素成分3kg/10a、13日前に窒素成分2kg/10aをめやすに施用する ・フェーン予想時は事前に深水湛水する ・落水は出穂25日以降、早期落水はしない

収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> ・胴割れを防止するため適期に収穫し、急激に乾燥させない。 ・収穫適期は黄化粒割合が85~90%になった頃 ・積算温度は975℃をめやすとする。 ・胴割発生防止、穂発芽性が易いため刈遅れないようにする。 ・うるち混入防止のため収穫~乾燥・調製まで機械設備の掃除を入念に行う

適正調製
<ul style="list-style-type: none"> ・適正乾燥で胴割れを防止 ・乾燥温度を上げ過ぎない ・仕上げ水分は15%を目標 ・篩目は1.85mm以上を使用し1等米に仕上げる

■推奨農薬

区分	農薬名	使用回数の制限等
種子病害の予防剤	温湯消毒+タフブロック 等	・1回
初期害虫・いもち病の予防剤	Dr.オリゼフェルテラ粒剤、GPオリゼリディア箱粒剤 等	・1回
除草剤	初期剤	ソルネット1キロ粒剤、エリジャン乳剤・ジャンボ
	初中期一発剤(使用例)	カウンシルエナジー1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ 等 ウイニングラン1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ 等
いもち病・カメムシ防除	フジワンラップ粒剤 等	・2回以内 ・他剤の使用可
紋枯病防除	バリダシン液剤5	・5回以内 ・他剤の使用可
カメムシ類防除剤	スタークル液剤10	・無人へり防除区
	スタークル粒剤・豆つぶ 等	・個人防除区

※農薬を使用する際は、必ず最新の使用登録を守ってください。(農薬確認 令和8年3月)

■推奨肥料

区分	肥料名	一般ほ場	大豆後ほ場
育苗	稚苗苗代配合	30g/箱x18箱1回	
田植前追肥	くみあい液肥2号	270g(18~23箱)	
	べんとう肥	360g(18~23箱)	
基肥	高度化成オール14	40~50kg/10a	0~14kg/10a
穂肥	輸入尿素(グラニュー)	出穂23日前 4.5~5.5kg	出穂23日前 4.5kg
		出穂13日前 4.5~5.5kg	出穂13日前 4.5kg
		合計9~11kg	合計9kg

★他肥料の使用可。低地力ほ場は増肥や土づくり肥料の補完をお奨めします。

★コスト低減のため安価な農薬、肥料を効果的に使用しましょう!

※前作より品種変更の場合は必ず落下粒対策(うるち米混入防止)として初期剤を使用してください。

■注意事項

- ①「米菓原料の非主食用米」として扱われます。
- ②栽培管理における各作業や、肥料・農薬の使用日・使用量等は「栽培管理記録簿」に記帳し、指定された期日までに必ず提出して下さい。
- ③「栽培管理記録簿」とあわせて、種子の保証票や生産資材の購入伝票を保管して下さい。

お問い合わせは最寄りの営農センターへ